

資料 「 ART WEB MEETING 01 」参加ウェブサイト概要	
① Tokyo Art Beat	
② http://www.tokyoartbeat.com/	
③ <ul style="list-style-type: none">2004年10月 TokyoArtBeat.comのサービスをスタート 2005年8月 NPO法人化 2007年4月 KansaiArtBeat.comスタート予定	
④ <p>2004年10月の創設以来、Tokyo Art Beatは従来のメディアやウェブ上で取り上げられることがほとんどなかった何百ものスペースやアーティストに対して、情報を発信する機会を提供してきました。2年半あまりで10,000以上のイベントを紹介し、東京のアートシーンを盛り上げ、目覚しい飛躍を見せています。</p> <p>【サイトのミッション】</p> <ul style="list-style-type: none">無料であること バイリンガルであること 独立した非営利団体であり、中立であること 国内外に東京のイベント情報を発信することで、アート・デザインを通じた文化交流を促進すること 誰もがアート・デザインの魅力を発見／再発見できるきっかけであること	
⑤ 特定非営利活動法人GADAGO	
⑥ <ul style="list-style-type: none">共同設立者 ポール・バロン+オリビエ・テロー+藤高晃右 広報・営業 坂井香央里 編集 アッシュレイ・ローリングス+上川まなみ+河野真悠子 サイト構築・デザイン クリス・パルミエリ+アンドレアス・ポーベン+クリス・小林+パトリック・ベニー+クリストフ・ゾーター TABlog編集 アッシュレイ・ローリングス+橋本誠	
⑦ ビジュアル芸術一般、アート、デザイン、建築、写真、レクチャー ほか	
⑧ 日本語・英語の完全バイリンガル	
⑨ <ul style="list-style-type: none">イベント情報 首都圏の600以上の美術館・ギャラリーで行なわれる毎月400程度の展覧会・イベントの情報を網羅的にすべてバイリンガルで掲載し、ジャンル／エリア別のリストや、「最も人気がある」「もうすぐ終わる」「もうすぐ始まる」「子供と楽しめる」などさまざまな角度からの「スマートリスト」で簡単に検索できる。掲載された情報は自動的にアーカイブされ現在のまでの2年半の間に10,000以上の展覧会情報が蓄積されている。また、携帯電話からの閲覧も可能で、誰もが簡単に展覧会に実際に足を運ぶために活用できる MyTAB 自分が見たい、勤めたいイベント情報をブックマークして忘れないようにできる機能で、見逃さないようにeメールによるリマインダーを設定したり、自分の好きなイベントを他のユーザーとシェアすることもできる。登録すれば誰もが、展覧会のレビューを書き込むことができる TABlog 東京内外の日本人、外国人のさまざまな立場のアートを愛するボランティアスタッフによって執筆されている、展覧会レビュー、インタビュー、ビデオコンテンツ TABジョブ 日本で唯一のバイリンガルでの、クリエイティブ業界向け求人情報サービス	
⑩ 毎日2回の更新部分とリアルタイムの更新部分の組み合わせ	
⑪ <p>Tokyo Art Beatは首都圏の600以上のアートのスペースで行なわれているアート・デザインに関する展覧会を「無料で」「日英バイリンガルで」「すべて」掲載し、「永久的に」アーカイブしていくサービスを提供していくことで、アジアのアートシーンに対する国際的な注目を育てていきたいと考えています。われわれが持つ最新のオンライン技術を最大限に生かし、この豊富な情報を、一部のプロフェッショナルだけでなく、できるだけ多くの人に伝え、そして知識を共有していくことを目指しております。そのために、誰もが簡単に使えて、しかも常に新しい情報に出会うこと、発見することを促進するシンプルなインターフェースを提供しております。また、TABは中立であることも重視し、旧来のメディアのように"ある特定の編集者"に選択された展覧会情報ではなく、各ユーザー自身が他のユーザーに展覧会を薦めることができ、またその展覧会について公的なコメントをすることができるようになっています。そのことで、アート・デザインの文化的価値、経済的価値の生成プロセスに「オーディエンス」の声を取り戻すことができると考えております。</p> <p> [ポール・バロン+オリビエ・テロー+藤高晃右]</p>	
⑫ <ul style="list-style-type: none">ポール・バロン Paul Baron (Tokyo Art Beat / 共同設立者) <p>1977年、フランス生まれ。1998年より4年間ロンドンにてグラフィックデザインを学ぶ。2002年来日し、本田自動車技術研究所にて3年間インタラクシオンデザインを手がける。04年にTokyo Art Beatを設立、デザインを担当。NPO法人GADAGO理事長</p> <p>オリビエ・テロー Olivier Thereaux (Tokyo Art Beat / 共同設立者) <p>1977年、フランス生まれ。「ウェブ」をさらに良い場所にするのが仕事。国際組織のW3Cでは、ウェブ標準の策定・導入を手がけ、非営利活動であるTokyo Art Beatではテクノロジーで文化サービスに貢献することをゴールとしている。コスモポリタンな詩人でもある。2004年にTokyo Art Beatを設立、技術面を担当。NPO法人GADAGO理事</p> <ul style="list-style-type: none">藤高晃右 Kosuke Fujitaka (Tokyo Art Beat / 共同設立者) <p>1978年、大阪府生まれ。東京、NYの大学にて経済学・マーケティングを学ぶ。2003年より3年間ソニーエリクソンにて、研究開発費管理、マーケティング業務を担当。04年にTokyo Art Beatを設立、広報・マーケティング・会計などを担当。NPO法人GADAGO理事</p></p>	

<p>凡例——①正式名称／②URL／③設立までの流れ／④サイトの目的／⑤運営母体／⑥運営スタッフ／⑦主なジャンル／⑧言語／⑨主なコンテンツ／⑩更新日／⑪バネラーからのコメント／⑫バネラー略歴</p>	
<p>①</p>	
<p>②</p>	
<p>③</p>	
<p>④</p>	
<p>⑤</p>	
<p>⑥</p>	
<p>⑦</p>	
<p>⑧</p>	
<p>⑨</p>	
<p>⑩</p>	
<p>⑪</p>	
<p>⑫</p>	

<p>REALTOKYO</p>	
<p>http://www.realtokyo.co.jp/</p>	
<ul style="list-style-type: none">1999年 通産省MMCA「マルチメディアコンテンツ市場環境整備事業」に採択される。試験運用開始 2000年 創刊	
<p>「リアルなトーキョー」のカルチャーシーンを国内外の読者と共有すること（編集長コラム「Out of Tokyo」001と「REALTOKYO って何だ？」参照）</p>	
<p>NPO法人リアルシティーズ</p>	
<ul style="list-style-type: none">発行人兼編集長 小崎哲哉 副編集長 アンドレアス・シュトゥールマン+松丸亜希子 編集 内田伸一+三鬼弥生 アート・ディレクション 小阪淳 プログラム 亀永吉文+真貝孝洋(GKテック)+島田卓也	
<p>映画、ステージ、音楽、アート、デザイン、タウン、Book/Disk</p>	
<p>日本語、英語(全体の80-90%ほどがバイリンガル)</p>	
<p>【ウェブサイト】</p> <ol style="list-style-type: none">メディア機能 トップページ 1週間分の新着記事を表示 RT Picks 映画、ステージ、音楽、アート、デザイン、タウン各イベントのレビュー／書籍・CDなどのレビュー TOKYO仕掛人日記 カルチャーシーンをつくっている人々のエッセイ。現在は前田圭藏(カンパセーション/プロデューサー)、窪田研二(インディペンデントキュレーター)の両氏が連載中 東京編集長日記 雑誌やウェブマガジン編集長のエッセイ。現在は「夜想」今野裕一、『A』馬場正尊、『トーキョー・ギャザリング』後藤繁雄の3氏が連載中 昭和40年会の東京案内 同名のアーティストグループ各氏(会田誠、有馬純寿、大岩オスカール幸男、小沢剛、土佐正道、バルコニコシタ、松藤浩之)による連載エッセイ TOKYO JAZZ REPORT 東京のジャズシーンについてのレポート。現在は花井雅保氏が連載中 REALCITIES 世界各国の都市からのカルチャーレポート。随時掲載 Tokyo, 4 Weeks 首都圏で向こう4週間以内に開催されるカルチャーイベントのロングレビュー。随時掲載 東京芳名帳 東京訪問中のクリエイターへのミニミニインタビュー。生声付き 僕が／私が訳したいこんな本 気鋭の翻訳家／翻訳家志望者による未訳書籍の紹介と和訳サンプル 東京リンク集 映画、ステージ、音楽、アート、デザイン、タウン6ジャンルの主要サイトを集成 Out of Tokyo 編集長・小崎哲哉のエッセイ <ol style="list-style-type: none">ツール機能 イベント情報入力システム プロでもアマでも無料で利用できるカルチャーイベント告知システム。首都圏2,000のカルチャー施設情報をインプットした会場データベースを利用 スケジューラー REALTOKYOに登録されているイベント情報を書き込めるウェブ上の「手帳」 リマインダーメール スケジューラーに登録した情報を、週1回自動送信。イベントを見逃す悔しさを解放されます イベント検索 日付、エリア、ジャンル、キーワードから観たいイベントを調べられます <ol style="list-style-type: none">キャンペーン ONWAR - 戦争について考えるプロジェクト Web上の展覧会「WASP (War As Sales Promotion)セールスプロモーションとしての戦争」プロジェクト [メールマガジン]	
<p>【REALTOKYO MAIL MAGAZINE】更新情報を毎週配信(木曜日)</p> <p>*独自コンテンツ「自腹で行きます！ 編集部イベントカレンダー」もあり</p> <p>【REALTOKYO BAR】</p> <p>オフラインイベント。トークショー、ダンス、これまでに9回開催</p>	
<p>毎日更新(土日祝日、年末年始、お盆の時期を除く)</p>	
<p>東京など、日本のカルチャー情報は、国内ではだいぶ共有されるようになってきたと思います。でも海外、とりわけご近所の国々については、僕らも知らない先方もご存じなかったりする。そういう状況を変えていくために、ウェブサイトやメールマガジンなどの安価で速いメディアが役立つかもしれません。3年前にソウルで開かれたあるアート会議でも、そんな提案をしたら大いにウケました。とはいえその場でウケただけで、なかなか実際の動きには至らなかった。でも最近、あらためて「やってみようか」なんていう話が中国や韓国の友人との間で出はじめています。どんな媒体をどのようにつくったらいいのか？ ウェブだからこそできることはどんなことか？ もしかしたら、やはり紙でもいいのではないかと。 東京や国内の話に加えて、そんな話ができるとうれしく思います。 [小崎哲哉]</p>	
<ul style="list-style-type: none">小崎哲哉 Tetsuya Ozaki (REALTOKYO & ART iT / 発行人兼編集長) <p>1955年、東京都生まれ。96年、インターネットエキスポ日本テーマ館の編集ディレクションを担当。2000年に和英2カ国語のカルチャーウェブマガジン「REALTOKYO」を、03年に同じく2カ国語のアート雑誌「ART iT」を創刊する。企画制作作品にCD-ROMブック「マルチメディア歌舞伎」、写真集「百年の愚行」など</p>	

<p>DNP Museum Information Japan: artscape</p>	
<p>http://www.dnp.co.jp/artscape/</p>	
<ul style="list-style-type: none">1995年 「Museum Information Japan(MIJ)」にて全国的美術館情報を配信開始 1996年 オンライン・マガジン「network museum & magazine project(nmp)」創刊 1998年 上記二媒体を統合し、「DNP Museum Information Japan: artscape」創刊 2005年 「メセナアワード2005・アート情報文化賞」(企業メセナ協議会)受賞 2006年 「International版」配信開始	
<p>国内外へ向けた日本各地のアート情報の発信 美術館、展覧会情報のアーカイブ作成</p>	
<p>大日本印刷株式会社</p>	
<ul style="list-style-type: none">企画 森 司(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)、影山幸一(デジタルアーカイブ研究) テクニカルディレクション、artscape news編集・制作 春木祐美子(webエンジニア) 全国展覧会情報制作 橋淳子(webデザイン・制作) 企画・編集 メディア・デザイン研究所 発行 大日本印刷 運営 DNPアーカイブコム 制作 DNPデジタルコム	
<p>美術一般、メディア・アート、デザイン、建築、写真、映画、音楽、ダンス、ITほか</p>	
<p>日本語、英語(対訳式バイリンガルではなく、それぞれ独立したコンテンツ)</p>	

<ul style="list-style-type: none">フォーカス 旬のアートプロジェクト、トピックスなど 学芸員レポート 各地の現役美術館学芸員がオススメする展覧会と展覧会作りの現場の声 展覧会レビュー 村田真・原久子・小吹隆文・福住廉による、プログスタイルのショート・レビュー 展覧会スケジュール 全国各地の展覧会情報。常時、600-800件程度の情報を提供。県別検索可 展覧会ピックアップ 話題の展覧会を厳選して紹介 オン・ザ・アートスポット 芸術系教育機関の研究・創造の話題 ミュージアムIT情報 美術館でのIT技術利用の理想と現実 デジタルアーカイブ スタディ デジタルアーカイブの動きを多面的に紹介 ミュージアムグッズレポート 毎月おすすめのミュージアムグッズを紹介 デジタルアーカイブ百景 デジタルアーカイブの今をネットの世界から探る 投稿情報「これ見て！」 展覧会・イベント・ホームページ・出版・施設・募集の投稿情報 リンク集・用語集 アートリンク集／ミュージアムデータベース／現代美術用語集／デジタルアーカイブ用語集／美術関連人物辞典「who's who」ほか <p>【International版(英文)】</p> <ul style="list-style-type: none">FOCUS 日本で開催される展覧会やイベントのレビュー HERE/THERE 編集者・翻訳者のアラン・グリーンズ氏による日本各地の美術館・ギャラリーのレビュー PICKS 展覧会をピックアップし、現在の日本のアートシーンを紹介 [メールマガジン] <p>「artscape news」最新号の情報をメール配信。次号予告もあり</p>	
<p>毎月1日、15日(土、日の場合は、翌週月曜日)</p> <p>*「artscape news」は、月に2-3回程度、本体の更新にあわせてメール配信</p>	
<p>artscapelは、今回集まった3つのサイトのうちで最も古くから続いているサイトです。サイト立ち上げの時から、コンテンツを蓄積しておくことを意識してきました。そしてこれだけ続けて来た結果、蓄積されたコンテンツはアーカイブとしての役割を果たし始めました。これはartscapelの財産です。ですが、その歴史と財産に頼っていたのでは、古くさいサイトになってしまうでしょう。アートやインターネットを取り巻く環境も、artscapelを立ち上げた頃と比べるとずいぶん変わりました。現在、そしてこれからのアートサイトに求められているのはどんなことでしょうか。また、アートサイトの果たす役割とはどういうものなのでしょうか。アートサイトを作っている人たち、そして使っている人たちの生の声を聞きたいと思っています。そして、今秋予定している、これまでにない規模でのサイトリニューアルに、ここで得られたことを生かしたいと思っています。 [春木祐美子]</p>	
<ul style="list-style-type: none">春木祐美子 Yumiko Haruki (artscape / ウェブマスター) <p>1965年生まれ。94年、水戸芸術館ウェブサイトの立ち上げを契機に、ウェブ技術者として96年に独立。同年、インターネットエキスポ日本テーマ館に参加、同エキスポ出展サイト「network museum & magazine project(nmp)」の立ち上げに関わる。その後、「nmp」は、95年開設の「Museum Information Japan(MIJ)」と統合し「artscape」となるが、その一連の流れから現在に至るまで、ずっとウェブマスターとしてサイトを見守り続けている。メルニュース「artscape news」の編集・執筆も担当</p>	

^[1] 正式名称／②URL／③設立までの流れ／④サイトの目的／⑤運営母体／⑥運営スタッフ／⑦主なジャンル／⑧言語／⑨主なコンテンツ／⑩更新日／⑪バネラーからのコメント／⑫バネラー略歴